

<プレスリリース>
報道関係者資料

第六回日中経営者ラウンドテーブル（2015）

「引き算戦略から足し算戦略へ—日中 Win-Win の未来」

主催：長江商学院（CKGSB）

この度、2015年12月1日（火曜日）に長江商学院北京キャンパスにて日中経営者ラウンドテーブルを開催する運びとなりました。このラウンドテーブルは長江商学院主催であり、本年度のテーマは「引き算戦略から足し算戦略へ—日中 Win-Win の未来」です。日本側からは、三菱東京UFJ銀行、野村證券、三菱商事、住友商事、日本通運、ローソン、中信証券株式会社、NE・TIGER（東北虎）などの企業の幹部の方々、キャノングローバル戦略研究所の瀬口研究主幹はじめとするエコノミスト等に参加いただく予定です。中国側からは、長江商学院の項兵学院長をはじめ学識者のほかに、企業からは、東証で上場している株式会社ストリームの劉海濤社長、北京建龍重工集团有限公司の張偉祥董事長などに出席していただきます。



2014年度の写真より抜粋



二極化の傾向が強まっています。

中国ではこれまでの労働集約型、投資集約型経済から「新常态」の経済に舵を取り、産業構造の転換を目指して規制撤廃、イノベーション、創業、E コマース、グローバル化、環境保護などをキーワードに積極的な挑戦を展開しています。膨大な市場を抱え、より付加価値の高い製品やサービスを目指し変貌している中国と、高い品質の製品、サービス、高度な技術力をもつ一方で成長市場を模索している日本とが様々な分野で協働し、Win-Winの未来を築き上げていく大きなチャンスが待ち受けています。中国の海外投資は2014年に1231億米ドルと急増していますが、日本への投資はその1%にも達していません。最近、大きな市場を抱える中国企業の日本への投資、日本企業との提携の動きが出てきました。

中国と日本がアジア経済及び世界経済の安定に向けてますます重要な役割を果たしていくことが期待されています。そうした情勢の下、如何に相互理解を促進し、信頼を構築し、協力関係を深め、アジアひいては世界の経済発展に共に貢献していくのか、これは日中関係者が共通して注目する話題であります。

パネリストの皆様には特に投資分野での最新の動き、中国国内外での日中共同プロジェクトの可能性、インターネットを介したボーダレスな物とお金の動きなどの具体例に焦点をあててお話いただくようご依頼しております。

参加者が、互いを尊重しつつ率直な意見交換をする、という理念のもと、事前に議事進行の手順を決めず、参加者全員が挙手により自由に発言するという日中間の会議としては異例の「ラウンドテーブル方式」を採用しています。日本と中国から企業経営者、学識経験者が集まり、本音で議論をし、知恵を分かち合う機会を提供しています。シナリオのない熱いディスカッションをご期待下さい。



2014年度の写真より抜粋

当日は120名を越える日系企業と中国企業のビジネスリーダーがオブザーバーとして会の進行を見守って下さると思います。

『日中経営者ラウンドテーブル』は、中国を代表するビジネススクール、長江商学院が主導して始まった日中のビジネスリーダーによるフォーラムです。両国経済界の相互理解促進を目的として、これまでに東京と北京で過去5回開催され、いずれも高い評価を得ています。日中両国の視点から、国際化の過程における協業を推進し、急速にグローバル化する世界の中で日中企業の競争力を高め、新時代のグローバルリーダーを創出してゆくことを目指しています。

*過去の開催記録 <http://jp.ckgsb.edu.cn/event/>

主催者：長江商学院

開催日：2015年12月1日

開催場所：長江商学院北京キャンパス（東方広場東2座20階9/10号教室）

開催時間：9:30 - 12:30（開場9:00）

言語：日本語・中国語（同時通訳付）

◆プログラム◆ ※日中同時通訳付

9:00-9:30 受付

9:30-9:35 開幕挨拶

9:35-10:00 学院長キーノートスピーチ

10:00-11:10 ディスカッション テーマ1:

新しい趨勢の下産まれた中国の新産業形態（インターネット金融の現状と発展、日本の伝統的な金融業の移行期に中国のインターネットの金融から学ぶこと、創業の波の下で探る中国における新しい投資の機会、日系企業の中国での発展への挑戦と最近の変化等

11:10-11:25 休憩(ティーブレーク)

11:25-12:25 ディスカッション テーマ2:

中日の企業協力による Win-Win の未来（日本を含む世界市場の変化、中国企業の対日投資プロジェクトの状況、第三国や地域での日中企業の協力プロジェクトなどのあらゆる新しいチャンス

12:25-12:30 閉幕挨拶

◆パネリストご紹介◆

<日本側> (あいうえお順)

●飯山 俊康 (いいやま・としやす)

野村ホールディングス株式会社 執行役員 アジア地域 CEO (香港・シンガポール駐在)
ノムラ・アジア・ホールディングス N.V 社長兼 CEO

●井上弘毅 (いのうえ・ひろき)

住友商事株式会社 常務執行役員 東アジア総代表 中国住友商事グループ CEO
中国日本商会副会長 中国日本商会事業委員会委員長

●杉山龍雄 (すぎやま・たつお)

日本通運株式会社 執行役員 東アジア地域総括

●瀬口清之（せぐち・きよゆき）
Canon Institute of Global Studies (CIGS) 主幹

●徳地立人（とくち・たつひと）
中信証券株式会社 董事総経理 投資銀行委員会主席

●松井俊一（まつい・しゅんいち）
三菱商事株式会社 常務執行役員 東アジア統括 中国総代表
中国日本商会副会長 中国日本商会社会貢献委員会委員長

●柳岡 広和（やなおか・ひろかず）
三菱東京日聯銀行（中国）有限公司 董事長（会長）
株式会社三菱東京UFJ銀行常任顧問 中国日本商会副会長

●山田 哲（やまだ・てつ）
株式会社ローソン 上級執行役員 海外事業本部長

<中国側>（順不同、中国語のまま）

●項兵博士
长江商学院创办院长

●唐越
小赢理财创始人、艺龙旅行网联合创始人、藍山中国资本创始人

●张志峰
NE·TIGER（东北虎）品牌创始人

●李侃
长石基金管理合伙人

●张伟祥
北京建龙重工集团有限公司联席董事长、浙江建龙控股集团有限公司董事长

●刘海涛
株式会社ストリーム（東証マザーズ上場企業）社長、思多励株式会社 CEO

●李卫红
复星集团日本投资部负责人

●赵润龙
网利宝 CEO

◆モデレーター◆

●関口和一

日本経済新聞社 編集委員

●欧阳辉博士

长江商学院金融学教授、长江商学院互联网金融研究中心主任、金融创新和财富管理研究中心联席主任

長江商学院 (Cheung Kong Graduate School of Business、略称：CKGSB)

2002年11月、香港最大の財閥を率いる李嘉誠氏の財団から寄付を受けて北京に創立された、中国初の非営利のビジネススクールです。45名以上の世界トップレベルの教授陣によって、設立後10年足らずで世界でもその名を知られる著名ビジネススクールへ発展を遂げました。MBAコースのほか、金融MBA(FMBA)コース、エグゼクティブMBA(EMBA)コース、エグゼクティブ金融MBA(FEMBA)コース、DBAコース、IMDとのデュアルEMBA(英語)、韓国EMBAおよびエグゼクティブ向け短期研修(EE)の革新的なプログラムを提供しています。約8,000人の卒業生のうち76%以上が副社長以上の地位についており、これらの企業の営業利益は合計で1兆米ドルと、2011年時点の中国GDPの13.7%に達しています。